

青梅市文化財ニュース

第 2 号

昭和62年10月 1日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会
青梅市郷土資料室
(青梅市駒木町1-684 Tel0428-23-6859)

前号では「成木地区の文化財」を紹介しました。今号は「旧青梅地区の文化財」(特に金剛寺付近)を紹介しましょう。

旧青梅地区の文化財 その1 (金剛寺付近)

天気の良い秋の一日、金剛寺付近を歩いて見ませんか。青梅駅から西に5分程歩くと、「梅岩寺のしだれ桜」(市指定天然記念物)があります。さらに西に歩を進めると「旧稲葉家住宅」の先100m程に熊野神社があります。この神社一帯が「森下陣屋跡」(市指定旧跡)です。神社本殿脇に「森下陣屋のカシ」(市指定天然記念物)があります。神社手前の道を下ると「金剛寺」(市指定史跡)です。「金剛寺表門」・「金剛寺の青梅」のほかに、見事な「しだれ桜」があります。またここには、「青梅や まだこのさきも いくちとせ」(明治28年建立・横田好々)の「青梅の句碑」をはじめ、いくつかの名碑もあります。

旧稲葉家住宅

(東京都指定有形民俗文化財) 青梅駅下車西へ徒歩約10分

江戸時代後期に建てられた蔵造りの母屋(二階建て)をはじめ、棟割長屋、門井戸などからなる江戸期の商家の代表的遺構です。稲葉家は、江戸時代に材木商や青梅縞の仲買を行う商人であり、青梅宿の町年寄を勤めた家柄です。月曜休み。

(東京都指定有形文化財)「旧稲葉家住宅」より南徒歩約5分
桃山時代の様

金剛寺表門

式をよく伝える江戸時代初期の建造物で、形式は四脚門、切妻造り、銅板葺き、唐様です。

金剛寺の青梅

(東京都指定天然記念物) 上記の門と同所にある。

平将門がこの地に仏縁を結び、一枝の梅をさして、芽を吹くか否かによって願の成就を占ったところ、芽が吹いたといういわれをもつ梅です。

この梅は、実が季節を過ぎても熟することなく、落果するまで青いことから「青梅」と称され、地名のいわれとなったとされています。この実が熟さないのは、植物学的には「稚態保留」という突然変異とされています。しかし、この梅も現在は老衰期にはいつているとのことです。

金剛寺には、このほかに「絹本着色如意輪観世音像」(国指定重要文化財)、「絹本着色田辺清右衛門惟良像」「青磁鉢」「金剛寺聖教」(いずれも東京都指定有形文化財)「寺領安堵状」「三田氏位牌」(いずれも青梅市指定有形文化財)等がありますが、一般公開されていません。

◎成木市民センターで「成木石灰焼窯跡調査報告会」(先号で紹介)が、市外の方14名を含む83名の参加をえて行われました。会は「武藤の窯」「田中の窯」の現地見学を含めて、午後1時より4時30分までの3時間半の間、一人として退席する人もなく、大好評のうちに行われました。さすが大勢のかたの多年にわたる努力の成果といえましょう。

(文責 野村慎三郎)